

JIS

紙及び板紙－75 度鏡面光沢度の測定方法

JIS P 8142 : 2005

(JAPAN TAPPI/JSA)

平成 17 年 7 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 紙・パルプ技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	尾 鍋 史 彦	東京大学名誉教授
(委員)	間 邦 彦	日本製紙連合会
	石 田 満 男	富士ゼロックスオフィスサプライ株式会社
	江 川 裕 仁	大日本印刷株式会社
	大 盛 啓 一	日本紙パック株式会社
	岡 山 隆 之	東京農工大学
	川 岸 秀 治	日本大昭和板紙株式会社
	岸 恭 二	日本製紙株式会社
	熊 谷 健	熊谷理機工業株式会社
	佐 竹 寿 巳	全国クラフト紙袋工業組合
	妹 尾 季 明	三菱製紙株式会社
	豊 福 邦 隆	紙パルプ技術協会
	箱 守 正 和	王子製紙株式会社
	古 市 浩	中越パルプ工業株式会社
	水 谷 壽	株式会社東洋精機製作所
	若 松 操	レンゴー株式会社

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 40.6.1 改正：平成 17.7.20

官 報 公 示：平成 17.7.20

原 案 作 成 者：紙パルプ技術協会

(〒104-8139 東京都中央区銀座 3-9-11 紙パルプ会館 TEL 03-3248-4841)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1573)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：紙・パルプ技術専門委員会 (委員長 尾鍋 史彦)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット環境生活標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、紙パルプ技術協会 (JAPAN TAPPI)／財団法人日本規格協会 (JSA) から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS P 8142:1993** は改正され、この規格に置き換えられる。

改正に当たっては、日本工業規格と国際規格との対比、国際規格に一致した日本工業規格の作成及び日本工業規格を基礎にした国際規格原案の提案を容易にするために、**ISO 8254-1:1999, Paper and board—Measurement of specular gloss—Part 1:75° gloss with a converging beam, TAPPI method** を基礎として用いた。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任をもたない。

JIS P 8142 には、次に示す附属書がある。

附属書 A (規定) 光沢度計の光学系仕様

附属書 B (参考) 参考文献

附属書 1 (規定) 紙及び板紙の 75 度鏡面光沢度試験方法 (平行光方式)

附属書 2 (参考) **JIS** と対応する国際規格との対比表

目 次

	ページ
序文	1
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	2
3. 定義	2
3.1 光沢	2
3.2 正反射；鏡面反射	2
3.3 拡散反射	2
3.4 鏡面光沢度	2
4. 原理	2
5. 装置	2
5.1 光沢度計	2
5.2 光沢標準面	2
5.3 ゼロ光沢標準	3
6. 試験片の採取及び調製	3
7. 装置の校正	4
8. 操作	4
9. 精度	4
10. 報告	4
附属書 A（規定）光沢度計の光学系仕様	6
附属書 B（参考）参考文献	8
附属書 1（規定）紙及び板紙の 75 度鏡面光沢度試験方法（平行光方式）	9
附属書 2（参考）JIS と対応する国際規格との対比表	12
解 説	14

紙及び板紙－75 度鏡面光沢度の測定方法

Paper and board－Measurement of 75° specular gloss－ Converging beam method

序文 この規格は、1999 年に第 1 版として発行された **ISO 8254-1**, Paper and board－Measurement of specular gloss－Part 1:75° gloss with a converging beam,TAPPI method を翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更して作成した日本工業規格である。また、**附属書 1 (規定)** には、従来 **JIS** で規定した平行光方式の紙及び板紙の 75 度鏡面光沢度の試験について規定する。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、原国際規格にはない事項である。変更の一覧表をその説明を付けて、**附属書 2 (参考)** に示す。

1. 適用範囲 この規格は、紙及び板紙の紙面の法線に対して 75° の角度における鏡面光沢度を測定する方法について規定する。この規格は、主として塗工紙に適用するが、スーパーカレンド処理された紙のような、つや (艶) のある非塗工紙にも適用できる。

備考1. 平行光方式を採用している**附属書 1** の紙及び板紙の 75 度鏡面光沢度の試験方法は、この規格の発効後も一定の移行期間使用を認め、最終的に 2008 年 3 月 31 日に廃止するものとする。移行期間における本体と**附属書 1** の違いを明確にするため、**10.** (報告) では“75 度 ISO 光沢度”とし、**附属書 1** の **8.** (報告) では、“75 度 JIS 光沢度”とした。

2. この規格は、反射像の質を評価するのではなく、キャストコート紙、ラッカー紙、高度にワニス処理、ワックス処理した紙又は高光沢インキフィルムには適用しない。これらの紙に対しては、20° の角度が望ましいが、この規格の方法でも、紙又は板紙上のインキ皮膜の光沢度の測定には適していることが示されている。この規格の方法によって測定された光沢度は、インキ皮膜の色と拡散反射率との違いにはほとんど影響されない。例えば、他の物性が同等な、白色と黒色との表面の光沢度を測定すると、白色の表面の方が黒色の表面より 1 光沢単位未満高い値を示す程度である。

3. ISO 2813 : 1978 塗料及びワニス－非メタリック塗膜の 20° , 60° 及び 85° の鏡面光沢度の測定方法－が幾つかの紙の測定に適している。

4. この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を表す記号は、**ISO/IEC Guide 21** に基づき、IDT (一致している)、MOD (修正している)、NEQ (同等でない) とする。

ISO 8254-1:1999, Paper and board－Measurement of specular gloss－Part 1:75° gloss with a converging beam,TAPPI method (MOD)